

# 令和 7 年度 夏季研究大会に関する 大会実行委員長の声



令和7年9月30日(火) 第2回 研究部代表者研修会

# 令和7年度夏季研究大会に関する実行委員長アンケート

## 1. 今年度の研究大会で工夫した点、良かった点 など

(参加者数の増加や満足度の向上・役員発表者等の働き方改革の観点から)

### 【国語】

- ・コロナ以降、リモートやオンデマンド型になってきている研究会であるが、あえて参集型とし交通の便や会場内での利便性を考えて会場を設定した結果、参加者からはかなり好評だった。
- ・350人収容可能なホールを使用することで、全員が一堂に会しての全体会・講演会を行うことができ、講師からも好評だった。
- ・学校等を使用しなかったため、会場の準備片付けに多くの時間を割くことがなく、勤務時間内での集合解散ができた。
- ・参加申し込みは、期限以降は一切認めず、事務局の負担軽減を図った。
- ・紙冊子を廃止し、事前にHP上にアップし参加者が各自で印刷等をする形にした。事務局の業務削減と紙資源の削減、経費の削減が可能となった。参加者もタブレット等で活用する姿が見られた。非常に好評であった。

### 【書写】

- ・事前研修会を運営委員(17人)のみで2回行い、その他の連絡は電話やメールで行うことで時間と旅費の節約に繋がった。
- ・役員と発表者にはメールや電話で連絡を取り合い、事前に集合はせず、当日の午前中にリハーサルを行った。時間や旅費の節約に繋がった。
- ・アンケートをWeb回答のみにしたので、集約の時間が大幅に削減できた。
- ・集合、リアルタイム配信、オンデマンド配信の3種類で開催したことで、他の部会と重なっても視聴することができたため、満足度は高かった。オンデマンドの部会を増やして欲しいという意見も出ていた。参加人数は155人だった。
- ・静教研のHPに資料やお知らせを掲載する際に、伝わりやすい文体を心がけた。掲載内容がわかりやすかったという声も聞かれた。
- ・実践発表、講演ともに「子供の実態に応じた具体的な実践」「表現したいという思いの引き出し方」「筆順や字形の理由を子どもの成長段階に合わせて伝えることの大切さ」など、具体的で主体的な内容が多く、参加者からの満足度は高かった。

### 【社会】

- ・5年ぶりの集合開催としたことで、県内各地の社会科の先生方と膝を突き合わせて実践交流でき活発な分科会となった。
- ・分科会ではオンラインと違い、和やかな雰囲気の中でも、突っ込んだ具体的な話し合いができ大変勉強になったという声をいただいた。
- ・実践発表を小学校3年～6年の4分科会と中学校歴史・地理・公民の3分科会の合計7分科会としたことで、参加者の希望に沿った分科会に参加できた。
- ・市内中学校と隣接する歴史博物館と共同開催という形で、中学校歴史分科会を博物館内の講座室に置いた。また、大会に合わせて博物館側が全参加者に入館パスポートを配布してくれたので、無料で博物館見学ができ、参観者に好評であった。
- ・JR静岡駅から近く、また繁華街に近い中学校を会場としたことで、酷暑の中だったが、参加しやすかったといった声や会場を離れて昼食をとる場所に困らなかったという声をいただいた。
- ・駿府城公園に隣接する会場であったこともあり、史跡や歴史的建造物もあり、大会参加に合わせて観光(散策)してもらうこともできた。
- ・実践発表者は2年前から協力者をあて、実践に関わりながら発表をまとめていった。また、発表原稿は市の社会科のメンバーの方に検討をしてもらったことで、静教研社会科部の主題に沿ったわかりやすい発表ができた。実践発表者一人で発表するのではなく、組織として発表できたことがよかった。また若手育成にもつながった。
- ・講演者は静岡市に縁のある博物館の館長である中村先生にお願いし、静岡の産業であるお茶にかかわる講演をお願いした。教育関係者の話を期待する声もあったが、先生方が興味をもてる話であった。

### 【数学】

- ・今年度は、「第80回関東甲信静数学教育研究静岡（富士）大会」と兼ねての実施であったため、静岡県数学教育研究連合会が中心となって実行委員会を組織し大会を運営しました。
- ・大会参加者も多くなる大会であったため、郵送文書の廃止、2次元コードによる受付等、作業・運営の簡素化を進めました。

### 【理科】

- ・発表、グループ討議を2部制で行ったことにより、希望分科会に全員が参加できた。
- ・1分科会30名程度の定員としたことにより、提案発表に対し、充実した討議や内容の深い質疑が行われた。
- ・実行委員会数を減らし、規模を縮小した。（打合せ会議回数の減少。校務PCの活用。役割を明確にし、人員を削減。）

### 【音楽】

- ・今年度初めて分科会発表資料をHPから各自ダウンロードしていただく形をとった。発表者の負担が減って良かった。
- ・東部地区は、大会運営支部は分科会発表を行わない分担にしているため、過重負担にはなっていない。
- ・分科会会場はホールを使用せず、テーブルや椅子を動かしてグループ協議をしやすくしたことは参加者の満足につながった。
- ・午後の講演講師には、ほとんどの小中学校教員が扱ったことのある曲を作曲した先生をお招きし、全員で歌いながら学ぶことができた。「大変有意義だった」という感想が97.7%を占めるなど大好評であった。
- ・講演資料（楽譜）は、著作権等いろいろ対応しなければならない面があったため、業者に依頼した。お金はかかったが、運営側の労力はあまりなく、また綺麗な資料を渡すことができて良かった。

### 【美術】

- ・参加者同士の交流を第一に考え、午前中ワークショップ、午後は実践発表をもとにグルーワークの時間を多く設定した。
- ・スリム化を意識し、基調提案はなくし、大会実行委員長があいさつの中で、大会の趣旨や美術教育に対する富士地区の取組や考えを説明した。

### 【保健体育】

- ・参集型で実施したため、午前中の全体会と講演会、午後の分科会共に、その場の雰囲気を感じながら、特に分科会は活発な意見交換が行われた。
- ・午前中の全体会と講演会、午後の分科会を同じ会場（ロゼシアター）で行ったため、移動の必要もなく、効率的に会を運営できた。
- ・午前中の講演会では、公認スクールトレーナーに講演と実技（室内=その場でできる体づくりや姿勢を保持する体幹のトレーニング等）を行っていただき、スクールトレーナーとしては、学校に対してスクールトレーナーの制度を広めるよい機会となり、学校側としては、室内でもできる体づくりや怪我の防止等学びの多い講演会となった。
- ・分科会については、実行委員（事務局）から時間配分や大まかな会の進め方を示し、必要な記録用紙や付箋等を用意した。細かな運営は各地区に任せる形をとったが、各地区ともに、充実した分科会になっていた。
- ・午前の講演、午後の分科会共に、参加者からは、概ね好評な意見をいただくことができた。

### 【技術家庭】

- ・会場を中学校にして半日開催で行っているため、運営面は簡略化することができた。昨年度、静岡市で行われた夏季研究大会では、少人数の準備スタッフで運営可能な大会運営をしていた。そのノウハウを活かして、本年度の磐周湖西大会も少人数のスタッフで大会を運営することができた。
- ・半日開催であるが、分科会がメインとなっており、技術・家庭科の教員が少ない中でしっかりと交流できる大変よい機会となった。参加者の満足度は、おおむね好評であったが、各校の旅費の関係で、遠方から参加することは難しく、参加者数の減少につながるものが課題である。
- ・本年度は駐車場を確保できたため、車での参加も可能としたことも好評だった。

#### 【英語】

- ・ 半日開催で、参集、オンライン配信、オンデマンド配信を希望できるようなハイブリッド型にしたことで、旅費も考慮した参加しやすい大会になった。参加者のアンケートを見ても大変好評で来年度以降も継続してほしいという声が大半であった。
- ・ 令和8年度に行われる全英連との関係で分科会なしでの開催となったが、分科会なしでも好意的な意見が多かった。
- ・ 大会を運営する役員との会合の数をできる限り減らした。
- ・ 静岡県にゆかりのある講師を選定できた。講師からは自身の見た児童生徒の姿や使用教科書をもとに聴講者同士で話合うなど、今後の授業改善や見直す機会を大変わかりやすく学ぶことができた。

#### 【生活総合】

- ・ 大会会場になるような施設がないため学校会場から配信、一部参集によるコンパクトな運営をおこなった。会場費がなしで、実行委員は14人で運営した。
- ・ 実践発表者の負担軽減の視点から、大会前の実践発表のオンデマンドをなくし、当日リアルタイム配信にした。
- ・ 働き方改革の視点から、実行委員会は集合を減らし、校務用PCの市内共有をつかって、データを共有した。
- ・ 講演者が、大会全体に関り実践発表の講評を行った。
- ・ 大会の終わりの言葉を、次年度開催地区の実行委員長が行うことで、大会のつながりをだせた。
- ・ 専門の配信業者に委託することで、配信やブレイクアウトルームの進行ができた。

#### 【道徳】

- ・ オンデマンド配信期間を3週間にし、昨年よりも長い期間をとった。

#### 【特別活動】

- ・ 集合とリアルタイム配信の形態をとったので、それぞれのニーズに合わせて多くの参加者を得ることができた。
- ・ 集合会場の規模を小さくすることで、実行委員の仕事を軽減することができた。

#### 【学校保健】

- ・ 静教研の運営と発表が重なることがあらかじめ分かっていたため、組織の立ち上げを早く行い昨年度の段階である程度の形ができるよう運営部、研修部ともに進めてきたことがよかった。
- ・ 学校保健研究部は、昨年度も夏季研究大会の参加者数が大変多く、会員の皆様の意識の高さを感じられたため、今年度も多くの参加者を見込んで、当日の集合開催・オンライン配信、約2週間のオンデマンド配信の3本立てで臨んだ。結果、合計436名の参加者となり、そのうち約7割の方が当日の集合開催・オンライン配信、約2週間のオンデマンド配信を今後も希望することがわかった。養護教諭のみでは、配信やオンデマンド設定といったICT業務に苦戦すると思い、業者（遠鉄システム）に任せることにしたが、それが役員の負担軽減につながり、会の運営に集中することができた。

#### 【学校図書館】

- ・ 東海大会を兼ねていたので、3年前から準備委員会を組織して準備を行った。
- ・ 早い段階で（3年前）全体会講師を決定し、周知を図ることができた。
- ・ 実践発表では、内容（読書・情報）でわけるとはやめ、校種別（小学校・中学校・高等学校）のみでわけると、実践発表者の負担軽減を図った。
- ・ 午後の分科会では、なるべくバリエーション豊富な内容になるよう、講師を依頼した。
- ・ 発表資料等はホームページからダウンロードする方法をとった。
- ・ グランシップで実施することで、スムーズに運営ができた。1日目は中ホールのみ、2日目は9階と10階を貸し切りにしたことにより、少ない人数で運営することができた。
- ・ 予想以上に多くの方が参加してくれて良かった。アンケートもほとんどが好意的な意見だった。

#### 【情報】

- ・ 担当地区の会員のみ集合とし、その他の県内市町の参加者はリアルタイム配信とした。そのため、大人数の入る会場を探して予約する手間や、会場までの交通手段の確保、当日の駐車場や受付の係の心配をすることも無かった。

### 【特別支援】

- ・午前中の半日開催に収めたことで、暑い中遠方からの参加者に配慮することができた。
- ・分科会で「時間を十分取って話し合いたい」という要望に応えることができた。
- ・全体会から分科会まで「移動なし」で参加できるようにした。
- ・講演会については「直接話を聴きたい」という声があった一方で、オンデマンド配信により「旅費について心配しなくてよかった」「繰り返し聴くことができてよかった」という声があった。
- ・大会役員の集まる（打合せ）回数を減らし、メールでやり取りを進めることができた。
- ・会場を市内公立学校に決定したことで、大会役員は準備に取り組みやすかった。
- ・今年度も分科会資料はHPからダウンロードして各自持参とし、発表者の負担が軽減された。

### 【生徒指導】

- ・生徒指導研究部の夏季大会は昨年度まで終日開催であったが、遠方から大会に参集する先生方や役員の負担等を考慮し、午後の半日開催にした。参加者の95.7%の先生方が半日開催に対して肯定的な意見があった。
- ・参集とオンデマンド配信の開催方法をとったことにより、参集が178名、オンデマンド97名で、合わせて275名の多くの参加者があった。

### 【学校給食】

- ・集合開催とオンデマンド開催で実施したため、多くの会員が参加することができた。
- ・分科会でグループ協議の時間を設けたことで、参加者が主体的に意見交換や情報共有をすることができた。

### 【事務】

- ・本年度も参集はせず、配信で実施しました。アンケート結果から参加者には概ね好評でした。理由としては、旅費の心配をしなくていいこと、暑い中会場まで行くことの負担軽減、オンデマンド配信で再度視聴することで理解が深まった等がありました。担当地区としても、最小限の人数で運営できるので、かなりの負担軽減になったと感じます。
- ・進行の一部にA I（音声読み上げサイト『音読さん』）を活用しました。事前録音の負担軽減につながったと思います

### 【小規模校】

- ・オンデマンド配信とし、配信期間を16日間に延ばした。
- ・オンデマンド配信のため、必要なタイミングで停止したり繰り返し視聴したりできるという利点があり、講演や発表の内容を深く理解することにつながった。
- ・2校の実践発表は昨年度同様、大会事務局に動画を提出し、負担の軽減を図った。

## 2. 今後の研究大会の課題、工夫・努力したい点 など （上記の視点から）

### 【国語】

- ・会場が学校図書館研究部と重なってしまい、参加者が戸惑うところがあった。日をずらせばよかったが、講師の都合もあり、同日同会場開催になってしまいご迷惑を掛けてしまった。
- ・利便性のよい立地での開催だったが、予想に反して市外からの参加者が少なかった。
- ・参加者の中には、HPの確認をしていなくて、所属分科会や、発表資料が分からない方がいるなど、広報の周知に課題があった。
- ・市外からより多くの先生方に来ていただきたい一心で、経費を多く使わせていただき、駅近の発表会に参加しやすい、研修に集中しやすい環境の会場にした。静岡市は県中央に位置し、距離的にどこからでも参加しやすい環境であるにもかかわらず、市外の参加者が予想外に少なかった。旅費の削減が進められ市外に出にくい環境や、教員の意識も変わってきているのかもしれない。夏季大会に向けて実行委員会を前年度から組織し、多くの教員が関わり、発表者はそのためによりよいものをと、多くの時間を費やして練り上げてきた。コロナを境に参加者が減っている状況で、各地区持ち回りで夏季大会を実施する方法は一考の余地ありかと思われる。参集型以外にもリモート、オンデマンド、ハイブリッド型などがあるが、全県規模の夏季研究大会を実施するのが、次第に困難になってきているような気がする。

### 【書写】

- ・複数の市町が合同で運営をする場合、Googleクラスルーム等インターネット上のシステムを活用する、メールをグループ配信にするなど、一斉に連絡をする手段を講じれば更に時間短縮に繋がったと思う。
- ・アンケートはWeb回答が集計をしやすいが、送信し忘れる参加者も多く、未送信者を追うことができないので、記名制にすれば良かった。
- ・当日、申込なしでリアルタイム配信への参加者が6人、連絡なしの欠席者が3人だった。リアルタイム配信とオンデマンド配信のどちらでもよいと認識した方もいたので、周知の方法を丁寧にすべきだった。また、申込をせずに集合に参加をした方が1人いた。参加者名簿をHP上に掲載すべきだったかと、反省が残る。
- ・オンデマンド配信を大会翌日からと業者に依頼をしたのだが、当日、業者から翌日の夕方以降になると知らされ、急遽HPで連絡をし、配信は翌々日からになってしまった。参加者に迷惑をかけてしまい申し訳なかった。

### 【社会】

- ・分科会を小中合わせて7分科会準備した。そのために、2年前から実践発表者の選考、協力者の選出、実践、発表原稿の検討と進めてきたが、今後7分科会を維持していくことも難しいのではないかとも思った。発表地区の実態や考え方に合わせて、例えば小学校2本、中学校1本と半分になることも考えてもいいかとも思った。
- ・集合開催が望ましいと思うが、大会担当地区の事情や旅費の問題等を考えると、オンライン開催も選択肢と考える必要がある。ただし、この場合は分科会発表と講演のみという形も考えられる。研究協議を充実させるには、オンラインではなかなか難しいのではないかと思う。

### 【数学】

- ・今回の関ブロ大会と静教研の研究大会では規模が違うため、準備・運営の方法が異なりますが、いずれにしても簡素化できるところは、より簡素化していくことが必要だと考えます。

### 【理科】

- ・実行委員会数を減らし、規模を縮小すること。打合せ会議回数の減少。校務PCの活用。役割を明確にし、人員を削減した。
- ・講師（講師）の選定。しっかり考えておいた方がよい。専門的な知識 or 授業で活用できる内容  
学校現場に近い方 or 学校現場に遠い方

### 【音楽】

- ・参加者数が予想よりもかなり多かったため、分科会会場が手狭になってしまった。また、それに伴い、スクリーンの大きさが小さく、見えにくくなってしまった。
- ・分科会の持ち方について、前・後半の司会者との打合せを念入りに行っておけば、協議がもっと深まったと思われる。（発表担当地区に任せた部分が多すぎたかもしれない。）
- ・参加者から「分科会発表資料の形式を揃えてほしい」という声があったが、他教科では様式を示すなど、何か対応をしているのでしょうか？

### 【美術】

- ・富士地区で4つの大会が重なったため、会場選定が難しかった。
- ・事務局長の負担が大きくなってしまった。今回は、発表者と会計も担っていた。
- ・実践発表に対して助言者を立てなかったため、物足りなさを感じた参加者もいた。
- ・必ずしも実践発表ありきではない形も、今後模索していく必要を感じる。

### 【保健体育】

- ・参加者については、180人程度で、ほぼ例年通りの人数であった。参加者の希望を優先し、分科会によっては、参加者がやや少ない分科会もあったため、より多くの会員の方に参加していただける会にしていきたいと感じた。
- ・今回は、公認スクールトレーナーというタイムリーな講師と講演内容で講演会を行うことができたが、予算と講師の選定、講演内容について、会員のニーズも考慮しながら選定していく必要があると感じた。
- ・参集形式の良さを感じた。難しい面もありそうだが、より多くの会員に参加していただくために、ハイブリッドでの実施もどうかという声をいただいた。



### 【技術家庭】

- ・今回は県西部地区での開催であったため、各校の旅費の関係で参加することができなかった方がいた。今後もその状態が続くことが予想されるため、毎年、県中部地区での開催とすることも検討した方がよいかもしれない。
- ・今回は、駅から近い学校を会場とし、さらに車での参加も可能としたため、会場校と近くの小学校の駐車場を借り、駐車場を確保しての開催となった。しかし、事前のアンケートで把握した車での参加者数が事前の予想よりも多く、駐車場の台数に不安があった。
- ・スリッパの持参をお願いしたが、徹底させることができなかった。参加者への連絡事項等を知らせる手立ては、今後はどうしていくか検討していきたい。

### 【英語】

- ・配信では「音割れ」「音量の問題」などのICTに必ず出てくる問題が見られた。
- ・資料は児童生徒や教科書の画像があるため、内容を精選した配付資料がぎりぎりとなった。講師からの事前配付資料の有無や配布形態も今後検討したい。

### 【生活総合】

- ・配信ではブレイクアウトルームをつかうことが多くなっている。今回、大会参加の申し込みから、事前にブレイクアウトルームのグループ分けをしようとしたが、事前のグループ分けはできなかった。参加者のアドレスは静教研への登録時のアドレスであり、大会当日にアクセスしてきたアドレスは、学校のタブレット等での参加であったため。

### 【道徳】

- ・R9年度の道徳夏季大会は、中部地区小学校道徳教育研究大会を兼ねるため、オンデマンド配信から参集型に変更する。参集型をしばらく行っていないため、企画運営など事前の準備の進捗が課題である。また、愛知、岐阜、福井、石川からの参加者受け入れも考え合わせた大きな大会を考えた運営を進めていく。小学校の研究発表会となるため、中学校教員の積極的な参加はないと思われる。

### 【特別活動】

- ・集合とリアルタイム配信の形態では、現場のプレゼン環境と配信環境を両立しなければならないため、専門業者による環境整備の確立が必須となる。

### 【学校保健】

- ・一人職の部における研究発表大会は、他団体の研究発表（学校保健研究大会）もあり、大変だと感じる。これまでのような「発表ありき」ではなく、講座や講演のような形を柔軟に取り入れられるとよい。
- ・今回、磐周と湖西との合同開催となったが、地区の規模が違うため役割分担も難しい。また、合同開催をすることで生じる連絡調整が2地区で多くなるため、改善できたらよいと考える。上記のような講座、講演会の運営を小規模の地区に任せるなど、方法を検討できるとよいと思う。

### 【学校図書館】

- ・上位大会は、グランシップにするとスムーズに運営できると思う。

### 【情報】

- ・設定した〆切後に参加の申し出が多くあり、Zoomライセンスの選定を見誤った。情報は、来年度以降も同じようなハイブリットの実施方法にするのであれば、初めからZoomライセンスをアップグレードすべきである。
- ・Zoomに当日入れなかったり、画像や音声が見聞きしづらかったりした方もいたので、静教研HPに大会当日に使用した講演会や分科会のPowerPoint資料を掲載し、代替とさせてもらった。

### 【特別支援】

- ・講演会については参集の魅力はあるが、オンラインやオンデマンドについて今後も考えていく必要がある。オンデマンドの編集作業は一定のスキルと時間が必要になるので業者に依頼したが相応の経費が発生する。
- ・開催市町の規模に応じて大会組織や役員数を柔軟に見直していく必要がある。
- ・開催市町によって参集できる会場確保が難しいことがある。エアコン整備が進んでいるので公立学校も候補としていくこと、収容人数の関係で人数制限を設けることなどを考えてもよい。（参集は先着順 外れた会員はオンラインでの参加）
- ・分科会話題提供者（発表者）の人選に苦慮しているという声も聞かれる。各地区の発表のスパンを開ける意味で開催を隔年にしてもよいのではないかと思う。

#### 【生徒指導】

- ・今後も、午後の半日開催の方向でよいのではないかと考える。半日開催であっても充実した研究大会にするために、講演、実践発表、協議の時間を確保していきたい。ただし、全体会など短縮・削減したが、12時30分開会になり、どうしても日程的にタイトになってしまう。参加者からは、半日開催については肯定的であるが、13時開会など開始時刻を遅らせてほしかったという意見も寄せられた。講演・実践発表・協議は、参加者にとって学び（研修）を深める充実したものとなるが、半日開催の方向で進めていく上で、講演の有無、実践発表の本数など、さらなる改善が必要となる。
- ・開催方法として、参集とオンデマンド配信の2つの方法により、参加者増加にも繋がったが、「生徒指導」に関する講演や実践発表のため、表に出ないほうがいいデータもあり、内容的にオンデマンド配信は向かないかもしれない。
- ・協議時間の確保、会場の移動時間の短縮を考慮した上で、多くの参加者に対応できるホールや大会議室を使用して2つの分科会を行い、近くの人と協議する形をとった。他地区の先生方と語り合うことができ研修が深まったという意見もあったが、ホールでは協議しにくかったという声も寄せられた。発表者や運営側からすると分科会ごと1つの会場にすることは良かったが、グループ協議がしやすい会場の確保、協議のグループ編成等を考えていきたい。

#### 【学校給食】

- ・半日開催になると、時間が限られるため、内容の精選が必要である。参加者が主体的に参加できる内容を考えていきたい。
- ・研究部ならではの講演が聞けることも静教研夏季研究大会の魅力のため、講師の選定にあたり講師情報があると助かる。

#### 【事務】

- ・配信で実施する場合でも、グループワーク的な事を取り入れるためには、地区や共同学校事務室単位などの小さな単位で集合すること等も検討する余地はあるのではないかと感じました。
- ・専門の教授を招聘しての講義は、テーマが身近なものだったこともあるかもしれませんが、満足度がとても高かったと感じました。発表者の働き方改革の視点からも、数年に一度はこのような形もいいのかも感じました。

#### 【小規模校】

- ・今後の小規模校教育研究部のあり方とともに、発表者や事務局の負担を軽減する形を検討していきたい。

### 3. 今後の夏季研究大会に関する事務局への要望・意見

#### （１）事前説明会（R6年12月開催）について

##### 【国語】

- ・適切だと思います。

##### 【書写】

- ・事前に丁寧に説明をしていただいてありがたかった。年度替わりで担当者が変わってしまうと引き継ぎが大変だが、前年度のうちに概要が分かっている方がありがたい。

##### 【美術】

- ・今後の在り方についての見通しや方向性を継続して打ち出していただけたら、計画を立てる参考になると思う。

##### 【保健体育】

- ・よい（富士地区は、実行委員長が今年度4月に交代したが、地区内の引継ぎにより対応した。）

##### 【技術家庭】

- ・12月の段階では、不透明な部分も多いが、遅くなれば準備が間に合わないため、時期をずらすことも難しいと思います。

##### 【生活総合】

- ・大会要項作成など、バックアップがありがたかった。

##### 【特別活動】

- ・この会には参加していません。



【学校保健】

- ・開催は必要であると考える。出張文書が校長のみになっていたため、事務局長宛てにも出してもらえるとありがたい。

【情報】

- ・また出たことがないので分からないが、年度末になる前に開催していただいた方が、引き継ぎも含めて良いと思う。

【特別支援】

- ・時期も内容も適切である。

【学校給食】

- ・事前説明会の参加者が該当年度の担当者ではないため、情報共有、連絡等で苦労した。開催する地区の参加者が参加できるようになると、よりスムーズな準備ができるように思う。

【事務】

- ・12月の説明会には出席していないので分かりません。

(2) 大会予算について

【国語】

- ・柔軟に対応していただき、ありがたかったです

【書写】

- ・前年度のうちに、実践発表者に使える予算を示しておけばよかった。
- ・旅費支給について、運営委員を全員対象として良いか、人数も含めて判断が難しかった。結局、管理職と教員代表を対象者としたが、対象としなかった運営委員も業務は多く、全員を対象とさせていただいてもよければ、それが最善策だったと思う。

【社会】

- ・なるべく個人で持参するなどしたため負担が減り、十分だった。

【理科】

- ・見直し希望（人件費、会場費等の高騰）

【音楽】

- ・十分でした。

【美術】

- ・十分活用させていただきました。特に問題はありませんでした。今後会員数の関係で、予算が減っていく中での運営を工夫していく必要は感じます。

【保健体育】

- ・よい（講師や講演内容によっては必要が出てくるかもしれない）

【技術家庭】

- ・昨年度と比べ、開催地区が県西部であったため移動距離が長く、結果として旅費が大幅に増加した。そのため、予算が不足する事態となった。今後、開催地区に応じて予算の割り当てを柔軟に調整いただけると助かる。
- ・静岡県と静岡市で旅費規程に違いがあり、日当の金額について差が生じることが気になりました。今後、一貫性を持たせるための調整を検討いただけると助かります。
- ・会計担当者の説明会だけでは内容が少し難しく、資料にも不明瞭な点がありました。もう少し詳しい説明をいただくと、より理解しやすかったと思います。

【生活総合】

- ・良好

【道徳】

- ・大会予算を確保するために、上位大会参加旅費を十分配慮してほしい。（本年度予算では、十分に配慮していただきありがとうございました。）
- ・中部地区などのブロックで開催する大きな大会や全国大会での予算増額配慮をお願いしたい。

【特別活動】

- ・物価高に合わせて、講師弁当代及び土産代の上限を引き上げたい。また、引き上げ幅もこれまでより大きくしたい。（実行委員の立場からすると、せっかく来ていただいた講師の方にはもう少しグレードの高い昼食や土産を用意したい。）

#### 【学校保健】

- ・当日のオンライン配信、事後のオンデマンド配信等を考えると、予算がギリギリであったため、これ以上、予算が削られると会員が希望する形での開催は難しい。ぜひ、本年度並みの予算を継続していただきたい。また、ICTの関係で請け負ってくれる業者の情報があるとありがたい。

#### 【学校図書館】

- ・他のところから予算がおおりる前に、グランシップの請求書が届きました。その時の予算では足りなかったので、事務局に相談したところ、すぐに対応していただき、大変助かりました。ありがとうございました。

#### 【情報】

- ・今年度並みに確保できるのであれば、問題ない。

#### 【特別支援】

- ・ムダな出費は抑えるという方針でよい。
- ・会場づくりの経費も少額で済むものは各校から持ち寄った。
- ・大会関係者への旅費支給についても、範囲を決めて支給していくしかないと思う。

#### 【学校給食】

- ・十分な予算のおかげで魅力ある講演やオンデマンド配信を実施することができた。

#### 【事務】

- ・執行計画を立てた時点で、通帳利用料が発生することや講師謝礼の源泉徴収税を事務局に振り込むこと等がしっかり把握できていなかったため困りました。説明会資料等に明記していただけると有難いと思います。
- ・講師に講話いただく際の演題の水や来賓用のお茶は支出可能としていただけると有難いと思います。

#### 【小規模校】

- ・今年度は配信業者のみの支払いだったため問題はなかった。
- ・講師謝金の額によっては予算が足りないことも今後考えられる。  
(金額によっては先生方が求めるニーズに合った講師にお願いできないことがある。)

### (3) HPを含むICT環境について

#### 【国語】

- ・参加分科会の希望の欄が第2までだが、任意で増やせるといいです。

#### 【書写】

- ・事前説明もわかりやすく、特に困ることはなかった。

#### 【社会】

- ・部ごと載せる内容はバラバラだったが、この点は掲載するなど統一したものと見やすいと思う。また、載せる場所が一か所ではなくわかりにくいという声もあったので、情報をつかみやすくする工夫ができるかと思った。

#### 【数学】

- ・関ブロ大会と兼ねていたため、大会HPが別の場所にあったことで周知が難しくなってしまったところがありました。

#### 【美術】

- ・HPでの情報発信や資料提供は有効だった。

#### 【保健体育】

#### 【技術家庭】

- ・説明会と、事務局の方からいただいたメールの連絡で、HPの入力やデータのアップを行うことができました。

#### 【英語】

- ・参加者の集約や資料の配付など、ほとんどをHP上で行えることは、運営側としてとてもよかった。働き方改革にもつながった。
- ・オンライン、オンデマンド配信を業者へ依頼できたことはよかった。
- ・今後、オンライン・オンデマンド配信が主流になるのであれば、事務局のZoomアカウント数を7、8月だけでも増やすことを検討してほしい。

#### 【生活・総合】

- ・今回、静教研事務局からアカウントをお借りして、たいへん助かった。特に、大会中100から500までアカウント数をあげてくれたことに感謝したい。

#### 【特別活動】

- ・HP申込画面の第1希望と第2希望の項目は、各研究部でカスタマイズできないか。例：第1希望は選択制にして第2希望はなしにする等

#### 【学校保健】

- ・事前の説明（資料等）が分かりやすかった。最初は、HPへのアップに対して不安が大きかったが、回数を重ねるごとにスムーズにできるようになった。

#### 【学校図書館】

- ・東海大会と兼ねていたので、他県の方が申込みできるように、協会のHPとは別の申込みサイトやダウンロード用HPを立ち上げて運用した。協会HPでは、要項掲載や申込みサイトのリンクを貼るなどを行った。
- ・サイトへのアクセス制限が高い市町では、学校ネットワークからダウンロード用HPへのアクセスができなかった。対策としては、スマホなど別のネットワークで開いてファイルをダウンロードして、学校の印刷機で印刷すれば良かったのだが、そこまでの知識を持ち合わせていない教員から問い合わせが何件もあった。

#### 【情報】

- ・学校における出張旅費の不足が想像以上に深刻である。静教研の開催地区が勤務校から遠い場合、学校もちの出張旅費をいくつも負担するのは難しい。会費を集めている関係で、会員が希望したら行かせてあげるべきであるが、それが難しい状況である。どの部も、積極的にリアルタイム配信やオンデマンド配信を取入れていく必要がある。

#### 【特別支援】

- ・HPは有効に活用されていると思う。ごく一部だが、資料の持参がなかったり、当日急に参加分科会の変更を希望したりする方がいたようである。

#### 【学校給食】

- ・ホームページの活用で研究大会の連絡や資料の準備等の負担が軽減されたが、会員にホームページで確認することが浸透していないため、周知が必要だと感じた。

#### 【事務】

- ・当日資料を掲載するにあたって、容量が大きかったため急遽分割しなければなりませんでした。事前に容量等についてお知らせいただけるとありがたいと思います。

#### 【小規模校】

- ・特に問題はなかった。

### （４）その他

#### 【国語】

- ・事務局の先生方には大変お世話になりました。前回の静岡大会には教頭職であったのと、またコロナ対応の大会ということもあり関わっていませんでした。初めて夏季大会の運営に携わることになり、分かっていないことばかりで事務局の方には大変ご迷惑をおかけしました。わかりやすく丁寧にご指導いただき、本当に感謝しております。ありがとうございました。

#### 【書写】

- ・申込ができたか、本人や学校が確認できるシステムがあると良いと思った。
- ・申込なしでオンラインに入ってきた方がいて驚いた。

#### 【社会】

- ・大会を運営することを通して、静岡市の社会科部の先生方と顔を合わせ協議する機会が増え、若手からベテランまでつながりが深まった。今後の市の社会科部を盛り上げていく意味でも大変よかった。

#### 【音楽】

- ・その昔、音楽研究部では、全体会の前に開催地区の児童・生徒が「記念演奏」をしている時代がありました。教員や地区の負担はありましたが、演奏側も鑑賞側も刺激や学びがありました。教員の力量向上につながっていました。夏季休業中や週休日等でなければ「生徒引率」が可能になりますが、復活させたいと思う人はまずいないでしょうね。（全日本音楽教育研究大会でも無くしている地域があるくらいですから…）部活動地域展開が進み、地域から演奏披露希望が出てきたら面白いなと期待しています。

#### 【保健体育】

- ・丁寧に確認や連絡を事務局から頂けたので助かりました。ありがとうございました。

#### 【学校保健】

- ・大会開催に向けて、様々な点で事務局に支えていただき感謝いたします。ありがとうございました。

#### 【情報】

- ・今年度の夏季大会で、集合研修でなくても成立した大会があったと思われる。Zoomのアップグレードライセンスを増やし、来年度以降に積極的にリアルタイム配信やオンデマンド配信の開催を進めていく必要があると思う。

#### 【生徒指導】

- ・参加の締め切りを過ぎてからの参加希望の先生が多すぎる。締め切り日を延ばすことも避けたい。また、発表資料等をHPにアップしたが、参加を希望してはいるものの、HPを積極的に見ていない状況である。発表資料をダウンロードして活用する願いをしても、持参することを言ってくれないと困るというような声もあった。受け身ではなく、先生方の主体的な参加を期待したい。

#### 【事務】

- ・事務局への報告の締め切りをもう少し遅くしていただくことは可能でしょうか。事務局への提出日から逆算し、8/18(月)までオンデマンド配信とアンケート締め切りを設定しましたが、オンデマンド配信について配信期間をもう少し長くしてほしいとの要望もありました。お盆期間の閉庁もあり、8月29日の提出期限まであまり日にちがなかったため、報告書作成担当や、アンケートをまとめる係の方々には提出に間に合わせるため、夏休みもそこそこで作成していただくことになってしまいました。働き方改革の観点からすると、夏休みはゆっくり休養を取っていただきたいと思いました。